

第4回（平成18年度）

教育システム改善のためのアンケート調査報告書

平成19年7月

有明工業高等専門学校

学校運営検討委員会

目次

1. はじめに	1
2. これまでの経緯	1
3. アンケートの方法と対象者	2
4. アンケートの結果と分析	3
4.1 5年生卒業時アンケート	3
4.2 専攻科生修了時アンケート	13
4.3 新入生保護者アンケート	20
4.4 2年生保護者アンケート	25
5. あとがき	29

付録

1 5年生卒業時アンケート
2 専攻科生修了時アンケート
3 新入生保護者アンケート
4 2年生保護者アンケート

1. はじめに

本校においては、「創造性」，「多様性」，「学際性」および「国際性」の育成を教育の基本理念とし，その理念に沿った学習・教育目標を定め，その達成のために最も効果的であると考えられる教育プログラムを作成して，組織的に日々の教育活動を行っている。本校の教育プログラムはJABEEよりその質を保証する認定を受けているが，教育プログラムおよびその実施体制（教育システム）は常に評価を受け，その結果を十分に検討・分析して効果的な改善を実施し，また，その評価をうけるという向上の循環を繰り返さなければならない。

本校において，その活動を分担している組織の一つが学校運営検討委員会である。本委員会では，教育システムについて，いろいろな立場からの評価を集約するために，アンケートを実施することにし，その結果を集約・分析して広く公開してきた。アンケートの実施にあたっては，本委員会において，実施対象や設問内容について十分に検討を行い，教育システム改善に対して，できるだけ有効なデータが集約できるよう工夫している。特に，今回は，初めて新入生および2年生の保護者を対象にしたアンケートを行い，本校の教育システムが保護者にどのように捉えられているかを調査した。また，アンケート結果の分析においては，委員各自がそれぞれ多くの時間をかけて綿密な分析作業を行い，その分析結果をまとめて，毎年度報告書を作成している。本報告書の作成に当たっては，集約したデータを基にして，教育システムの現状を正確に捉え，改善のポイントを的確に提示し，本校の教育改善に少しでも資することができるよう努力したつもりである。関係各部署でご活用いただければ幸いである。

2. これまでの経緯

現在，本校で実施されている教育プログラムは，平成16年のJABEE受審以前より，その時々の教育環境に対応して改善されてきたが，特に，平成13年からはJABEE受審に向けて，その基準を満たしながら本校の実状に適応するとともに，持続性のある効果的なプログラムにまとめるため抜本的な改善を行った，その結果，本校の教育プログラムは平成18年の中間審査を経て，平成16年から20年までの5年間，その質が国際的に保証される認定をJABEEから受けた，この教育プログラムは前項で示したように，常に検証・改善されなければならない，そのために本校では平成15年から組織的・計画的なアンケート調査を開始し，毎年，その内容を検証・改善しながら，現在まで継続している，表1にその内容の一覧を示す，

アンケート調査においては，その集計結果の的確な分析と，集計結果の公開および分析結果に基づく改善対策の迅速な実施が重要であることは言うまでもない，学校運営検討委員会（当時はJABEE委員会）では，最初の2年間，アンケート関連の業務を専業とする作業部会を設置し，上記アンケート結果処理業務の迅速な実施を実現した，その後，委員会の組織変更があり，学校運営検討委員会がアンケート関連業務全般を担当することになった，それからは，他業務との関係もあり，アンケートの事後処理業務が大幅に遅れる場合もあったが，現在はそれも是正され，今回の報告はほぼ予定通り提出できることになった，

3. アンケートの方法と今回の対象者

アンケートは、本科卒業予定学生、専攻科修了予定学生に対して卒業・修了を前にした時期に、5年生全員（平成18年2月）と専攻科2年全員（平成18年1月）に回答してもらった。新入生保護者に対しては入学式（平成18年4月）に配布し、翌日回収、2年生保護者に対しては保護者懇談会（平成18年7月）の際に配布・回収を行った、表2に今回の回答率を示す。

表1 学校運営検討委員会実施アンケート実施表

調査年度	実施時期	アンケート対象	作業状況	報告（予定）年・月	備考
H14年度	2003年2月 2003年1月	H14年度本科卒業生 H14年度専攻科修了生	集計完了 分析完了	第1回 H16年・3月	JABEE 作業部会
H15年度	2003年7月 2003年11月	卒業生OB 主な就職先企業	報告書公開		
H15年度	2004年2月 2004年1月	H15年度本科卒業生 H15年度専攻科修了生	集計完了 分析完了	第2回 H17年・6月	JABEE 作業部会
H16年度	2004年6.9月	卒業生OB	報告書公開		
H16年度	2005年2月 2005年2月	H16年度本科卒業生 H16年度専攻科修了生	集計完了 分析完了	第3回 H19年・6月	学校運営 検討委員会
H17年度	2005年12月 2005年12月	卒業生OB 主な就職先企業	報告書公開		
H17年度	2006年2月 2006年1月	H17年度本科卒業生 H17年度専攻科修了生	集計完了 分析完了	第4回 H19年・7月	学校運営 検討委員会
H18年度	2006年4月 2006年7月	新入生保護者 2年生保護者			
H18年度	2007年2月 2007年2月	H18年度本科卒業生 H18年度専攻科修了生	実施済	第5回 (H20年・3月)	学校運営 検討委員会
H19年度	2007年4月	新入生保護者 編入生 2年生保護者 卒業生OB 主な就職先企業	実施済 実施済		

表2 第4回アンケート回答率

	実施時期	対象者数	回答者数	回答率
5年生卒業時	平成18年2月	186	178	96%
専攻科生修了時	平成18年1月	27	27	100%
新入生保護者	平成18年4月	215	202	94%
2年生保護者	平成18年7月	207	176	85%

4. アンケートの結果と分析

4.1 5年生卒業時アンケート

【A：回答者自身に関する質問：設問 1～3】

回答者数は全体で178名であり、そのうち女性は59名（33.1%）である。物質工学科では女性がクラスの2/3（34名中23名）を占めており、電子情報工学科と建築学科では女性は40%である。

卒業後の進路において、『就職』する学生は、電気工学科・電子情報工学科・建築学科の3学科では70%以上、物資工学科が65%であるのに対して、機械工学科は50%を割っている（30名中14名）。反対に『大学進学』は機械工学科が30%と高く、次に25%の物質工学科が続く。

ところで『大学進学』者数は30名で、前回の37名からやや減少している。『専攻科進学』者数は24名で前回の22名と極端な違いはない。なお、『大学進学』・『専攻科進学』両者を含めた進学者数は30%で、前回の33%とほぼ等しい。

【B：教育全般の総括：設問 4～7】

本校の一般教育に対する『満足度』は全体的には約70%で、前回とほぼ等しい。物質工学科の90%弱が非常に高く、電子情報工学科の80%弱が高い。なお、電子情報工学科の前回の『満足度』は60%弱であったので20ポイントの上昇となっている。一方、建築学科の『満足度』は55%にとどまっており、前回の63%よりも減少している。また、電気工学科の『満足度』は65%であるが、前回の80%から極端に減少している。このように、『満足度』は、全体としての変化は少ないものの、学科により増減があり、建築学科では相対的に低い値を示している。

専門教育に対する『満足度』は全体的には約70%で、上記の一般教育とほぼ等しく、前回の75%よりは若干下がっている。機械工学科の80%を最高に、物質工学科の約75%が高いのに対して、電気工学科・電子情報工学科・建築学科では65%前後である。電気工学科では前回の約85%から大幅な減少であり、上記の一般教育と同様な傾向を示している。電子情報工学科では前回と変わらず、建築学科では前回から10ポイント以上の減少であり、一般教育及び専門教育ともに建築学科の学生の『不満足度』が高いことがわかる。

本校の教育設備に対する『満足度』は約65%であり、前回よりは若干下がってはいるもののここ数年の平均的な数値である。80%を超えた物質工学科を最高に、機械工学科と電気工学科が70%を越えている。それに対して、電子情報工学科と建築学科では55%を下回っており、特に建築学科では前回の80%からの大幅な減少である。電子情報工学科でも前回から10ポイント以上の減少である。

本校における勉強以外の学生生活についての『満足度』は65%で、ここ数年の中で最も低い値である。電子情報工学科と物質工学科では約75%と高いものの、その数値は前回と変わらない。電気工学科と建築学科では60%を下回っており、建築学科では前回の90%以上から30ポイント以上の大幅な減少である。

教育全般の総括において、物質工学科では4項目全てで高い『満足度』を示しているが、建築学科では4項目全ての『満足度』が最も低く、4項目全てが前回よりも減少している。このことは異常であるため、その要因を調査しなければならないであろう。

【C：科目教育の設問：設問8～95】

●一般科目に関する設問（設問8～39）

[項目別（全般）]

『必要度』約50%の美術・音楽を除けば、一般科目の[必要性]は全体的に高い。『必要度』が90%を超えた科目は、前回もそうであった「英語」と「低学年時の数学」および「低学年時の物理」である。特に、英語は、前回までの設問が「外国語（英語，独語）」であったものをカリキュラムの変更により「英語」に変更したためか、95%を超えている。また、「化学・生物」については、電子情報工学科と建築学科で前々回40%未満から50%以上へ上昇があったが、今回再び、同学科で50%弱へ下がったため、全体としては、前回の約70%から60%強に下がっている。この2学科で、「化学」の[必要性]が低い原因はよくわからないが、他学科より強力な動機付けが必要かもしれない。

[教育実状]に関する『適正度』は、前回と同様、全体的には70%前後であり、それなりの評価が得られていると思われる。とりわけ、「低学年時の数学・物理」では90%前後であり、非常に高い数値である。特筆すべきは、前回の約45%から今回約65%に急増した「英語」である。前述のように、設問において「独語」がはずれた影響かもしれない。

『到達度』に関する『到達度』の回答の比率は、「低学年の数学」が80%強であり、他の科目は50%弱から60%強である。前回と比較してみると、「社会」が約40%から約50%へ、「英語」が約35%から約50%へ、「化学・生物」が約50%から60%へ増加しており、全体的に増加の結果が得られている。学生・教員双方の努力が反映したものと考えられるが、50%前後である科目は、まだまだ良好な状態とは言えない。さらなる意識改革や努力が必要と思われる。

[時間数]については、外国語で『増やす』という希望が40%程度あり、他の科目が20%前後であることと比較すると、高い数値になっている。これは前回と同様の結果である。

[科目別（全般と傾向が異なる科目）]

今回特筆すべき科目は、英語である。『必要度』・[教育実状]の『適正度』・『到達度』ともに前回より約10ポイント上昇している。上述のように、設問における「独語」がはずれたことや、昨年度よりTOEIC等の対策を視野に入れたカリキュラムの再編がなされたことが反映していると思われる。ただ、『到達度』50%は、まだ授業改善等に努める必要があると感じられる。

低学年時の数学・低学年の物理については、前回同様、全項目で高い評価であり、現状が維持できればよいと思われる。

美術・音楽については、前回同様[教育実状]の『適正度』においては約60%であるものの、『必要度』においては約40%と少し低い評価である。前回の分析でも述べたが、これらは、学際性の延長上に位置する科目、あるいは工学以前の大前提である人格形成教育に関係する科目であるという認識が教育側にも学生側にも必要と思われる。

他の科目は、前回とほぼ同様の結果であり、『到達度』50%の科目は、今一度、改善の余地が感じられる。

●全学科共通専門科目に関する設問（設問40～59）

○低学年次の情報処理基礎については、1年次の授業は、電子情報工学科は学科で、残り4学科は共通で行われ、2年次では各学科で行われている。[必要性]に関しては、『必要度』の割合が前回全学科とも80%を超えていたが、今回、電気工学科で80%を、機械工学科では70%をきり、建築学科では85%から65%へ激減している。[教育実状]の『適正度』は、電子情報工学科は前回同様、約90%であるものの、機械工学科・物質工学科は前回と同じ約30%・約50%であり、電気工学科が約60%から約50%へ、建築学科は約65%

から約40%へ減少し、しかも、かなり低い評価である。『到達度』については、全学科平均としては前回と同様約55%だが、機械工学科・物質工学科が30%弱から約40%・約40%から約60%へ上昇したものの、電子情報工学科が約90%から約80%へ、電気工学科が60%弱から約50%へ、建築学科が約50%から約40%へ減少しており、出入りが激しい。減少した学科はもちろん、上昇した学科も高い評価とはいえないので、何らかの改善が必要と思われる。

- 低学年次の工学基礎Ⅰ，Ⅲについては、『必要度』が、前回、電子情報工学科と建築学科は55%・45%と低かったが、今回、全学科とも60%を超え、建築学科が約65%、物質工学科が70%強で、他学科は80%に近い値である。〔教育実状〕の『適正度』も、各学科共に、前回より約10%ずつ上昇し、平均で約70%である。『到達度』も、機械工学科の約50%から約80%への上昇も含め、全学科とも上昇し平均で約65%である。今回の対象者は、この科目が導入されて2年目の学生であり、教員側において、1年目に初めて行われた授業を顧みて、改善された2年目の授業が行われたことに原因があると思われる。
- 高学年次の応用数学については、『必要度』において、物質工学科が約90%から約70%へ減少し、建築学科が約60%から約70%へ増加し、残りの3学科は、前回同様で90%を超えている。〔教育実状〕の『適正度』は、電子情報工学科が約75%から約90%へ上昇し、建築学科は前回同様約50%、残りの3学科が約5%ずつ減少し、平均としては前回同様約80%である。『到達度』については、機械工学科が約80%から70%へ、電気工学科は前回と同じ90%、電子情報工学科が約65%から約75%へ、物質工学科が約70%から約60%へ、建築学科が40%弱から50%弱へ増減しているが、全体としては、前回同様約70%である。
- 応用物理については、『必要度』は、機械工学科は約10ポイント増加し約95%に達しているが、建築学科は前回と同様約60%、電気工学科が約90%から約80%へ電子情報工学科が約90%から約80%へ、電子情報工学科が約80%から約70%へ減少し、特に物質工学科が約90%から約50%へ激減し、全体として約10ポイント減少し約70%となっている。〔教育実状〕の『適正度』も、各学科において、〔必要性〕と同様の傾向の増減であり、全学科平均で約10ポイント減少し70%弱となっている。『到達度』については、5学科平均の数値は前回と同じ60%弱であるが、物質工学科の60%強から30%への減少、建築学科の30%弱から60%弱への増加等、変動は激しい。原因は推測できないが、〔必要性〕〔教育実状〕における減少は、原因を究明し、改善が必要と思われる。
- 卒業研究については、全体として、評価が下がっている。〔必要性〕に関しては、『必要度』において、建築学科が約80%、残りの学科が90%以上であることは前回とほぼ同じだが、『必要』の割合が10ポイント弱ずつ減少しその分が『おおむね必要』の回答に変わっている。〔教育実状〕の『適正度』は、機械工学科で80%弱から約90%へ上昇し、物質工学科は前回同様約90%であるが、残りの3学科は約90%から70%前後に減少している。『到達度』についても〔教育実状〕同様の傾向の増減である。数値的には、〔必要性〕〔教育実状〕『到達度』とも80%を超えており、他の科目に比べれば良好な状態であるが、卒業研究は、高専の根幹をなす科目であり、前回までは90%以上であったことを考えると、減少の原因を解明しておかなければ、今後の状況が悪化することも懸念される。

●専門科目に関する設問

○機械工学科対象（設問 60～83）

〔必要性〕に関しては、すべての系の科目において90%以上の学生が必要性を認めているとともに、前回（80%強～90%）に比較しても改善された値となっており、機械系として配置された科目については、その『必要度』において問題はないと思われる。〔教育実状〕については、『適正度』に満足している割合は、前回と同様に、加工系科目およびエネルギー系科目において他系の科目より低いですが、それでも、前回の70%台から80%後半の値へ増加しており、全体としては、適正な授業が実施されているものと判断される。

ただ、制御系科目において、『不適正』と回答した学生がいることに対しては配慮が必要である。『到達度』においては、『身に付いた』・『おおむね身に付いた』との肯定的な回答率が前回50%前後と低い値を示していた加工系、エネルギー系および制御系科目がすべて60%以上に増加しており、特にエネルギー系科目においては、85%まで達し、『到達度』の向上に対して改善努力がなされていることがわかる。[時間数]に関しては、すべての系の科目において『そのまま』との回答率が80%以上になっており、特に問題はないと思われる。全体的には、やはり『到達度』の項目が、他項目に比較して顕著に満足度の値が低く、今回改善された結果が得られてはいるが、重点的な継続改善努力が必要と思われる。

○電気工学科対象（設問 60～79）

科目の[必要性]に関して電気電子共通科目をのぞいた科目についての『必要度』は90%以上である。[教育実状]に関しても電気電子共通科目をのぞいた科目についての『適正度』はほぼ90%以上である。『到達度』に関しても電気電子共通科目をのぞいた科目についての『到達度』は85%程度である。電気電子共通科目の各回答に対する上記割合について前々回、前回、今回の順で推移を見ると、[必要性] 90%, 95%, 75%, [教育実状] 80%, 95%, 65% 『到達度』 70%, 65%, 55%となっている。[時間数]についても電気電子共通科目をのぞいた科目では『そのまま』とした回答が80%程度、『増やす』とした回答が15～20%程度となっており特に問題はないと思われる。一方、電気電子共通科目は[時間数]に関しても『減らす』との回答が25%以上と他の科目に比べるとかなり高いものとなっている。例年と比較すると電気電子共通科目に対する回答が全体的に低下しており、その要因を調査する必要があると思われる。

○電子情報工学科対象（設問 60～95）

調査科目の分野は、工学基礎、電子工学系、情報工学系、総合領域の各科目群ならびに、電子工学系の実験、情報工学系の演習である。

まず、「必要性」について『必要度』は全体で約85%である。工学基礎科目に対して約95%と高くなっている一方で、電子工学系科目に対しては約75%と低くなっている。

次に、[教育実状]の『適正度』は全体で約70%であり、前回の約80%から下がっているが、これは前々回の約70%と同程度である。電子工学系科目に対して約45%と低い値を示しており、この原因を明らかにする必要がある。『到達度』は全体で約60%となっており、前々回の約60%と比べて同程度、前回の約70%からは約10ポイントの低下が見られる。とくに、電子工学系科目と電子工学系実験ではともに約50%と低くなっている。

最後に、[時間数]については、『増やすべき』と回答した割合が高いのは情報工学系演習で約30%である。一方、[時間数]を『減らすべき』と回答した割合が高いのは電子工学系科目で約30%である。工学基礎科目および総合領域では『そのままよい』との回答割合が80%以上と高かった

○物質工学科対象（設問 60～87）

例年と異なる傾向として、基礎的な工学基礎（共通科目）および物質コース専門科目の全体的な低下が挙げられる。前回と比較すると、基礎的な工学基礎では、[必要性]は80%から60%、[教育実情]は80%から60%、『到達度』は70%から65%、[時間数]は『そのまま』が多くを占め75%と同様であった。物質コース専門科目では、[必要性]は95%から85%と低下したものの高い割合を維持しているが、[教育実状]は85%から65%、『到達度』は85%から70%、[時間数]は『そのまま』が多くを占めており、85%から90%で若干増加した。いずれの科目群においても、時間数は『そのまま』が大半を占めているにも関わらず、[必要性]が低下していることから、科目の動機付けがうまくできていない可能性がある。

上記の2つの科目群を除いては、すべての科目について[必要性]を高く感じており、『必要度』は例年と同様、80%以上になっている。また基礎的な化学および実験については80%以上が『必要』を選択し

ておりこれも同様の傾向である。また、[教育実状]についても『適正度』は80%を超え、高い値を維持している。『到達度』については、いずれも肯定的回答がおよそ80%を占め、特に、実験では『身についた』が前回に比べて20%から60%と大幅に増加し、教育成果が学生に実感されているようである。[時間数]は、ほとんどの科目で70%以上が『そのまま』であり、科目間の時間配分の変更の必要は無く、現状で問題ないと考えられるが、生物コース専門科目については50%が『増やす』と答えており、生物コース学生が生物科目の学習時間の不足を訴えているようである。

○建築学科対象（設問60～95）

専門科目の[必要性]における『必要度』は、計画系1以外では90%前後の数値で前回と変わらない。計画系1は80%を超えているが前回より若干減少しているものの、全体的には専門科目に対する必要性の認識は高いと言える。

[教育実状]における『適正度』は計画1・構造系1・生産系・設計製図を除くと80%を超えている。これら4科目のうち約75%の構造系1を除いた3科目の『適正度』は約65%にとどまっており、設計製図は前回と比べると85%から20ポイントの極端な減少である。

『到達度』において70%を超えている科目は、計画系2・構造系2・実験しかなく、環境系・構造系1・設計製図は50%台にとどまっており、特に構造系1がちょうど50%である。環境系と設計製図では前回の80%超からの大幅な減少となっている。構造系1は前回よりも若干あがっているものの非常に低い値で推移しており、到達したと学生が感じられるような改善が必要であろう。

[時間数]について建築学基礎・設計製図で30%前後が、構造系1で20%が時間を増やしたほうがよいと回答しており、前回同様な結果となっている。

【D：学習・教育目標について：設問 101～118】

学習・教育目標の各項目に対する教育実状と『到達度』について、アンケート結果から分析した結果を以下に記述する。最後に全体のまとめを述べる。

A-1. 豊かな教養があり、多角的に物事をとらえる能力を備えている

[教育実状]の『適正度』は5年生全体で約75%であり、前回の約70%とほぼ同程度である。前回は前々回から約20ポイント上昇していたが、今回はそれが維持された値となった。ただし、学科間の差があり、とくに建築学科では約60%、電子情報工学科では約65%と低くなっており、他の3学科と差が生じている。

『到達度』は約65%であり、前回の約60%とほぼ同程度の数値である。これについても学科間の差が比較的大きく、機械工学科が約80%である一方で、電子情報工学科が40%、建築学科が50%である。

A-2. 高い倫理観を持ち、環境保全に関する責任を自覚する能力を備えている

[教育実状]の『適正度』は5年生全体で約60%であり、前回の約70%から下がり前々回の約60%と同程度となった。回答結果における学科間の差が非常に大きくなっており、物質工学科で約90%である一方、建築学科では約35%である。

『到達度』は約65%であり、前回の約60%とほぼ同程度である。[教育実状]と同様に学科間の差が大きくなり、物質工学科では約80%である一方、建築学科では約45%、電子情報工学科では約50%である。

A-3. 日本語や外国語によるコミュニケーション・発表能力を備えている

[教育実状]の『適正度』は全体で約55%である。前回の調査結果と同程度であり、前々回の約40%からは大きな改善が見られる。なお、回答結果には学科間の差が大きく、物質工学科では約90%である一方、電子情報工学科では約30%、建築学科では約35%である。

『到達度』は全体で約55%であり、前々回の30%弱、前回の約40%から改善されている。ちなみに、学習・教育目標A-3の関連科目の『到達度』は、国語で約60%、英語で約50%、卒業研究で約80%である。『到達度』が改善された理由としては、本項目に関連する英語系の科目として英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが新しく導入されて、英語の『到達度』が上昇したことが考えられる。この項目についても学科間で結果に差が生じており、物質工学科の約85%に対して、建築学科の約40%、電子情報工学科の約50%である。

B-1. 系統的に修得した工学の基礎および専門分野の知識を備えている

[教育実状]の『適正度』が全体で約85%であり、前々回・前回と同様に高い評価が得られている。『到達度』は全体で約75%であり、前々回・前回とほぼ同程度である。

B-2. 専門分野における自己啓発・向上能力を備えている

[教育実状]について『適正度』は全体で約75%である。この結果は、前々回の60%強から改善された数値であり、前回の80%とほぼ同程度である。とくに物質工学科では約95%と高くなっている。建築学科の結果について前は約95%という高い評価であったが、逆に今回は約55%と低くなっている。この急落の原因を調査する必要がある。

『到達度』は全体で約65%であり、前々回の約50%から改善され、前回と同程度である。

B-3. 幅広い専門知識と学際性を備えている

[教育実状]の『適正度』は全体で70%を超えている。これは、前々回の60%から改善された数値であり、前回と同程度の数値である。また、前回と同様に、建築学科では約40%と低くなっている。

『到達度』は全体で約65%であり、前回の約55%から10ポイント程上昇している。これが一時的なものなのかどうか次回以降の結果から考察する必要がある。なお、電子情報工学科では約45%、建築学科では約50%と低くなっている。

C-1. ものづくりで養われた実践的な創造性を備えている

[教育実状]の『適正度』は全体で約75%であり、前々回の60%弱から上昇しており、前回と同程度の数値である。『適正』と回答した比率は、前は機械工学科と建築学科が高かったが、今回は機械工学科と物質工学科で高くなっている。

『到達度』は全体で70%弱であり、前回の60%強から上昇している。電子情報工学科では約45%と低い。また、前回に高い評価だった建築学科では、今回は約55%となっている。

C-2. 論理的思考能力と課題探究・解決能力を備えている

[教育実状]の『適正度』は全体で約75%であり、前々回よりも少し高く前回と同程度の値である。また、学科間で結果に差が生じており、機械工学科と物質工学科において約90%であるのに対し、建築学科では約60%である。

『到達度』は全体で約65%であり、前々回からは15ポイント程度、前回からは5ポイント程度増加している。なお、[教育実状]と同様、学科間で差が生じており、物質工学科の約90%に対して建築学科では約

40%となっている。

C-3. ものごとを企画し計画的に進める能力を備えている

[教育実状] について『適正度』は全体で70%強であり、前々回の約70%と同程度、前回の約80%から下がっている。学科間で結果の差が生じており、機械工学科の約90%に対して、建築学科では約55%である。ちなみに建築学科では前回は90%を超えており、年度によって結果に大きな違いが生じた原因を調査する必要がある。

『到達度』は全体で約75%であり、前々回から約25ポイント、前回から約15ポイント上昇している。この理由を調査する必要がある。また、これについても学科間で結果に比較的大きな差があり、物質工学科の約90%に対して、建築学科の約50%、電子情報工学科の約55%となっている

全体として

学習・教育目標のA-3, B-3, C-3の『到達度』において、前回から10ポイント以上の上昇が見られる。その理由として、A-3については英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが導入され、学生が以前よりも積極的に学習に取り組んだためと考えられる。一方、B-3とC-3については、この項目に関係する科目は比較的小さく、それらの科目の各担当教員による教育方法の改善と学生の取り組みの向上によるものとも考えられるが、現在のところ理由をはっきりとは分からない。次回以降のアンケート結果を踏まえて、理由を明らかにする必要がある。また、その他の多くの項目においても前回の数値を維持している。前回は多くの項目において改善が見られた。その理由として、新カリキュラムになって初めての卒業生を対象としてアンケートが行われカリキュラム改定の効果が表れたこと、シラバスを改善した効果が表れたこと、授業改善アンケートに基づいて教員が教育方法を改善したことなどが考えられた。今回、多くの項目において前回の数値を維持した理由として、前回考察したものと同様の理由が考えられる。次回以降、評価を維持するとどまらず、さらに改善されるように各種の取り組みを実施することが望まれる。

なお、学習教育目標B-1以外について[教育実状]および『到達度』の評価結果に学科間で比較的大きな差が見られた。学科間で評価に差が生じるという傾向は以前のアンケートでも指摘されており、これは望ましい傾向とはいえない。学科間の格差の生じる理由について分析し、全学科とも高い評価が得られるように改善することが望まれる。

また、今後も継続して、シラバスを活用し、各科目がどの学習・教育目標を達成するための科目なのかということを学生が明確に認識するように工夫が必要である。

【E：その他：設問119～136】

○2年次の混合学級について

混合学級については、全体の90%以上の学生が『よい制度』『それなりによい制度』と回答している。学科ごとにみると機械工学科と物質工学科では『よい制度』『それなりによい制度』という回答が100%であった。『よい制度』『それなりによい制度』とする割合の前々回からの推移を見ると、学科間で多少差はあるものの、前々回が約70%であったのに対して、前回90%、今回90%以上ということで、学生にとって2年次の混合学級は定着し、好評であるといえる。

○授業外単位制度について

『よい制度』と評価する学生が全体の75%弱、『それなりによい制度』まで含めると全体で90%以上の学生に支持されていることが分かる。これは前回とほぼ同じ回答内容である（前々回は80%であった）。

○追認制度について

『よい制度』『それなりによい制度』と回答した学生の割合は、学科間で多少差はあるもののいずれの学科でも85%以上となっている。全体の割合についても前々回・前回からの推移を見ると60%, 85%, 90%の学生が『よい制度』『それなりによい制度』と回答しており、追認制度は多くの学生に受け入れられた制度になってきたものと思われる。

○LHRについて

『有意義だった』『おおむね有意義だった』と回答した学生が、全体で55%となっており、前々回40%・前回45%から若干伸びた結果となった。『有意義ではなかった』と答えた学生は、全体的に見ると、15%弱で前回の結果とほぼ同じである。さらに多くの学生にとって有意義なLHRとなるような検討が必要である。

○教育行事（阿蘇研修，研修旅行，夏季実習，特別講演等）について

『有意義だった』『おおむね有意義だった』と回答した学生が75%弱であり、前々回70%弱・前回70%弱とほぼ同じである。『有意義でなかった』とする意見は全体で約5%であり、教育行事は多くの学生から評価されているといえるであろう。

○特別活動2（体育祭，高専祭，球技大会，歓迎行事等）について

『有意義だった』『おおむね有意義だった』と回答した学生が、85%であり、前々回80%弱・前回80%強とあまり変化はない。『有意義でなかった』と答えた学生は電子情報工学科・物質工学科・建築学科3科では皆無，機械工学科・電気工学科でもクラスの約5%であった。これも前回とほぼ同様の結果である。学生が学生会行事を楽しみとしていることの表れであろう。

○SHRについて

『必要だと思う』『それなりに必要だと思う』と回答した学生が、全体で約65%，前回の約60%強とあまり変化はない。『廃止した方がよい』という学生は前回の15%から少し減少して10%ほどである。多くの学生はSHRの必要性を感じているようである。

○シラバスについて

『役に立った』『それなりに役に立った』と回答した学生が、全体で65%弱であり、前回60%弱とあまり変化はない。ちなみに前々回は50%であり、ここ数年増加していることがわかる。一方、『あまり役に立たなかった』が25%強、『役に立たなかった』が10%である。学科ごとでは機械工学科が前回約50%から今回70%，物質工学科が前回約65%から今回約80%とシラバスの利用率が上昇している。ちなみに電気工学科が前回60%から今回65%，建築学科は前回75%から今回約70%とほぼ同じである。一方で電子情報工学科では『役に立った』『それなりに役に立った』の割合が約30%で、前回の約40%という結果をさらに下回っており、学生にとって役に立つシラバスとする方策や改善，あるいは学生に対し利用を呼びかけるなどの努力が必要であろう。

○補習・オフィスタイムについて

[必要性]では『必要だと思う』『それなりに必要だと思う』と回答した学生が、全体で約75%であり、前回70%とあまり変化はない。ちなみに前々回は55%であった。実施状況の[実状]では、『機能していた』『それなりに機能していた』をあわせて約55%であり、前回の50%，前々回の40%強より伸びている。学科別でみると、一番高い割合を示した学科は前回と同じ物質工学科の約85%で、前回の約65%からさらに伸びている。一方、一番低かったのも前回と同じ建築学科で約30%，前回とほぼ同じ割合であった。[必要性]に対する回答の割合は学科間で差はあまりないが、[実状]では学科間で結構ばらつきが見られる。各学科での補習・オフィスタイムの[実状]について調査する必要があるかもしれない。次に補習・オフ

イスタイムにおける教員の態度を尋ねた質問では『良い対応だった』『おおむね良い対応だった』と回答した学生が80%強で、前回の80%弱とほぼ同じである。この項目について前回は学科間にそれほどの開き見られなかったが、今回は他の4学科が80%以上であるのに対して、建築学科だけが60%強と低く、「よい対応でなかった」と回答する学生が約15%存在している。この結果は前述の[実状]とも関連があるかもしれない。

○授業アンケートの結果が授業改善に反映されているかについて

『よく反映されている』『おおむね反映されている』と回答した学生が全体で約45%であり、『余り反映されていない』『反映されていない』が約55%となった。ちなみに前回はそれぞれ40%と60%であった。これらの項目について前回は学科間でそれほどの開きは見られなかった。今回『よく反映されている』『おおむね反映されている』と回答した学生の割合は、機械工学科が約25%から約65%、物質工学科が約40%から55%とそれぞれで改善が見られた。ちなみに、電気工学科が約45%から50%、電子情報工学科が約40%から約35%で、あまり変化はない。一方、建築学科は約40%から20%と大きく減少しており、80%もの学生が『余り反映されていない』『反映されていない』と答えている。このように学科間の開きはあるが、依然として全体的に満足できる結果とは思えない。前回の報告書でも述べたが、FD委員会に授業改善にむけての授業アンケートの活用等について対策を講じていただきたい。

○学校の事務サービス（学生課，図書館等）について

『よかった』『おおむねよかった』と回答した学生が全体で80%弱と、前回の70%強より伸びた。前回クラスの20%もの学生が『よくなかった』と回答した物質工学科の今回『よくなかった』の回答は皆無であった。全体で『良くなかった』と答えた学生は5%以下であった。しかし、『よくなかった』と『あまりよくなかった』をあわせると、建築学科では40%となり、年度によって一部の学科（前々回-電子情報工学科40%強，前回-機械工学科35%弱，物質工学科35%強）に『不満足度』が高くなる傾向があるように思われる。

○課外活動（クラブ活動等）の指導について

『よかった』『おおむねよかった』と回答した学生が全体の75%で、前々回，前回とほぼ同じである。学科ごとでは建築学科が少し低く約55%，その他の学科では80～85%である。

○学生相談室について

[必要性]では、『必要』『それなりに必要』と回答した学生が、全体で70%強あり、前々回の60%，前回の65%から少しずつではあるが増加している。学科ごとの『必要度』は65～75%となっており、学科間の隔たりはそれほどない。活動状況の[実状]に関して『機能していた』『それなりに機能していた』との回答は60%強であり、これは前回とほぼ同じである。学科ごとの回答をみると建築学科のみ40%と低く、その他の学科では70%前後である。

○寮の運営について（入寮経験者のみ回答）

『よかった』『おおむねよかった』と回答した学生が全体で約45%，約55%の学生がそうでなかったと回答しており、前回とほぼ同じ結果である。寮の運営と所属学科に相関関係があるかどうか不明であるが、とりあえず学科間で見てみることにする。学科ごとの入寮者数（入寮経験者数）はMが15名，Eが18名，Iが7名，Cが10名，Aが17名である。『よかった』『おおむねよかった』と回答した割合は、機械工学科が53%，電気工学科が56%，電子情報工学科が29%，物質工学科が50%，建築学科が29%であり、前回ほどではないが、多少差がみられる。ちなみに前回は電気工学科の83%から建築学科の15%まで大きなばらつきが見られた。前々回は、学科間での差はほとんどなかった。

○学生会について

『よい』『おおむねよい』と回答した学生が全体ではほぼ70%弱であり、前回の結果とほぼ同じとなった。これらの結果は前々回の40%からみると大きく増加しており、おおむね良い評価となっている。学科ごとの評価を見てみると、年度によって評価が大きく異なる学科がある。例えば、物質工学科は、『よい』『おおむねよい』と回答した学生は前々回が約20%、前回は約65%、今回は90%以上であった。

【自由意見】

27名から多くの意見が寄せられた。それぞれの意見を、(1) 教務に関すること、(2) 学生指導に関すること、(3) 寮生活に関すること、および(4) その他に分類し、以下にまとめた。大かっこは件数、学科特有と思われるものには丸かっこ書きで学科名をつけている。

(1) 教務に関すること

「実用的な科目の増加」や「選択授業の増加」、「学外単位科目の再考」などのカリキュラムの変更に
関する意見[6件]をはじめ、「科目数が多い」、あるいは「授業時間外の学習時間の確保ができない」[4
件]というカリキュラムの過密化を訴える意見や、「授業内容の重複をなくす」や「英語教育の見直し」
などの授業内容の改善に関する要望[4件]が挙げられた。

また、「大学編入試験のための補講をしてほしい」、「5年学年末テストと卒研発表の日程が近い (I)」、
「4年のときに、研究室の見学もしてみたい(I)」、「電気や機械の科目を高専の教員に教えてほしい(C)」、
「JABEEを意識しすぎて生徒を苦しめていると思う」などもあった。

(2) 学生指導に関すること

自動者通学の許可に関する意見[3件]や、学生指導の方針に関する意見[2件]に加え、学校行事の縮小
に反対する意見が挙げられた。

(3) 寮生活に関すること

○指導方針に関する意見[1件]

○寮に関して、何故1年生の部屋には現在空調設備が設置されていないのか等に代表されるように、1年
生がすごく住みづらい環境にいると思う。

(4) その他

○施設の要、不要に関する意見[7件]

不要：廊下のモニター、木の家具とか変なスペース

要：寮までの道の街灯（特に高専坂）、自販機を増やす、演習室のパソコン (I) [3 件]、渡り廊下
の屋根（雨のとき、水浸し）

○事務系職員の意識改革（態度が悪い、夏に寒い程冷房が効いた事務室）

教務に関することでは、授業科目数が多く、授業時間外の学習時間の増加に関する要望が多くあり、学
修単位の導入による授業時間数の減少なども考える必要があるかもしれない。また、一意見ではあるが、
学生指導や寮での指導方針に関する疑問が挙げられている。

4.2 専攻科生修了時アンケート

【A：回答者自身に関する質問：設問 1～3】

平成17年度専攻科修了生は、生産情報システム工学専攻機械系7名、同電気系6名、同情報系3名、応用物質工学専攻5名、建築学専攻6名の計27名である。

以下の分析では、百分率を用いているが、各専攻や系での分析では、母数が3ないし7であること、すなわち、サンプル数が少ないことを留意しておいていただきたい。

修了生の進路は、就職が18名、進学が8名、その他1名である。就職が2/3を占め、前回の50%弱よりも増加している。一方、進学の数8は前回と同じであるが、割合は30%で前回よりも減少している。機械系と電気系で進学が多い。

【B：教育全般の総括：設問 4～8】

「一般教育」・「専門教育」・「教育・研究環境」における『満足度』は80%前後で、前回よりもそれぞれ10ポイント以上増加しており、改善の跡がみられる。なお、個別にみると建築では「一般教育」・「専門教育」とも『満足度』が半数しかなく、他に比べて低いことが気にかかる。

「学業以外の学生生活」における『満足度』は85%で、前回よりも10ポイント以上高くなっており、各学生の生活における工夫が行われているのであろう。

「期待していた実力がついたか」については、『ついた』・『おおむねついた』は2/3に留まり、前回と変わっておらず、1/3以上が満足していないことになる。特に、電気系では6人中の4人、建築では6人中3人が満足していない状況である。

建築では上記の「一般教育」・「専門教育」とも『満足度』が50%であったため、専攻科における教育内容の再検討を議論する必要がある。

【C：科目教育の設問：設問9～44】

科目教育についての今回の結果は、全体的にみて、座学が前回よりやや低い評価になっている反面、実験・演習では評価が上がっている。

●一般科目と専門基礎科目に関する設問（設問 9～16）

一般科目（英語、日本語、社会科目）については、『必要度』が前回の100%から85%に下がっている。とくに建築系は50%（3名）である。[教育実状]の『適正度』も95%から約65%に減少し、機械系・電気系・建築系は50%から60%である。『到達度』に関しては、約75%から約45%に減少している。『到達度』が50%を切っていることは憂慮すべき結果である。原因を究明しての改善が必要である。

専門基礎科目（数学、物理、化学、環境科学）については、『必要度』が前回の約85%から約80%に減少しているが、建築学科の『あまり必要でない』3名、『必要でない』2名を除けば、他の系では全員『必要』あるいは『少し必要』である。[教育実状]の『適正度』は、前回も今回も約90%であり、前回1名いた『不適正』は今回0名である。『到達度』は、前回の約65%から今回は約60%に微減少している。ただし、建築系で前回0名だった『身に付かなかった』が1名いる。この科目については、建築系を除けば、良好な状態といえると思える。

●専門科目に関する設問（設問 17～44）

○特別研究については、全員が前回と同様、[必要性]を感じており、『必要度』100%である。とくに『少し必要』の割合が前回の約30%から約5%に減少し、その分が『必要』に変わっている。[教育実状]の『適

正度』は、全体としては 85%であるが、前回は電気系に 2 名だけ『やや不適正』の回答があったが、今回は機械系 2 名、情報系 1 名、建築系 1 名と増えている。『到達度』に関しては前回と同様 90%を超えている。とくに『身についた』の割合が前回の 20%から今回 45%に増えている。前回の結果と同様、全般として高い評価になっている。

- 技術英語については、前回は『必要度』100%であったが、今回建築系に『不必要』の回答が 3 名あり、90%に減少している。[教育実状]の『適正度』は、前回の 90%から 70%に減少している。『到達度』も 75%から 55%に減少している。とくに『あまり身につかなかった』が 0 名から 3 名に増えている。『到達度』が 5 割近くまで減少していることは、憂うべきことと感じられる。
- 特別実験については、『必要度』、[教育実状]の『適正度』、『到達度』ともに 95%前後であり、高い評価である。とくに『到達度』は前回の 80%から 95%へ増加している。合同特別実験等が整備されたことが反映された結果かもしれない。
- 特別演習についても、特別実験と同じで、『必要度』、[教育実状]の『適正度』、『到達度』ともに約 90%以上の高い評価である。とくに[教育実状]の『適正度』は、前回 60%であり改善が必要と分析したが、今回は 100%である。合同演習等が整備された影響かもしれない。
- 特別実習についても、上 2 つの科目と同様で、『必要度』、『適正度』、『到達度』ともに約 80%以上の結果が得られている。とくに前回 75%であった『必要度』は 90%を超え、『到達度』も 60%から約 80%まで上昇している。前回、情報系ではほぼ全員がネガティブな回答であったが、今回はほぼ全員がポジティブな回答であった。
- 専門科目（所属専攻・系の科目）については、前回と同様、『必要度』、『適正度』、『到達度』ともに約 90%以上の回答であった。ネガティブな回答は、[必要性]における機械系の『あまり必要でない』1 名と[教育実状]における情報系の『不必要』1 名、『到達度』における情報系の『少し身についた』2 名だけである。
- 複合的資質を育成する科目（所属専攻・系以外の科目）については、[教育実状]の『適正度』は 85%から約 90%に増加しているものの、全体としては前回より評価が下がっている。『必要度』は 75%から 70%に、『到達度』に関しては 65%から 55%に減少している。とくに、『不必要』『不適正』『あまり身につかなかった』の回答が前回はすべて 0 名であったが、今回はそれぞれ 4 名 1 名 3 名となっている。合同で行う実験や実習は評価しても、他学科の科目は評価できない学生もいるということであろうか。学生への学際性の認識を今一度啓蒙する必要があるのかもしれない。

【D：学習・教育目標について：設問 45～62】

A-1. 豊かな教養があり多角的に物事を捉える能力を備えている

[教育実状]については、『適正度』が満足すべきレベルにあるとの回答は全専攻科修了生の約 75%と、前回および前々回と比較して大きな変化はなく、本目標に関する[教育実状]は安定した状況にあるといえる。この目標に関連する専門基礎科目（数学、物理、化学、環境科学）の[教育実状]の評価においても、90%の学生が『適正度』において満足している。この結果より、これらの科目に対する教育目標に関して、学生が的確に認識していない状況が推測される。

『到達度』に関しては、肯定的な回答が約 65%程度であり、[教育実状]の結果を考慮すれば、ある程度連動した結果と考えられる。

上記の結果は、前述したように、前回とほぼ同様の傾向を示しているが、[教育実状]、『到達度』とも、5 ポイント程度、満足度の値が減少しており、日々、意識して改善努力をする必要があると思われる。

A-2. 高い倫理観を持ち環境保全に関する責任を自覚する能力を備えている

〔教育実状〕に関しては、95%以上の学生が適正に実施されていると回答しており、この目標に関しては、高い適正度で教育が行われているといえる。前回（75%）や前々回（80%）の結果と比較してもかなり高い値であり、今回はかなり改善されたことがわかる。

『到達度』についても、やはり95%弱の学生が満足できる『到達度』であったと回答しており、この教育目標に関しては、高いレベルで目標が達せられている状態であると思われる。

本目標に関連する科目は技術者倫理や環境科学などであるが、これらの科目を担当する教員が、授業内容等の改善に勤め、それを学生が効果的に消化することができた結果であろう。

A-3. 日本語や外国語によるコミュニケーション・発表能力を備えている

〔教育実状〕に関しては、約65%の学生が『適正度』において肯定的な回答をしている。しかし、前回（70%）、前々回（80%）の結果と比較すると、適正度が減少傾向にあることがわかる。

『到達度』については、55%の学生が『身に付いていない』とネガティブな回答をしており、前回の結果と比較して、かなり増加している。このように、過半数の学生が本目標に関して、達成感を認識しておらず、この結果は憂慮すべきものと思われる。早急にこの結果に対する詳細な検討を行い、改善策を策定して実行に移すべきであると考えられる。

本目標に関連する科目としては語学系科目（日本語コミュニケーション、英語）と実習系科目（特別研究など）があるが、前者の〔教育実状〕における『適正度』は65%、後者は85%程度であり、本目標の達成度を改善するためには、語学系の科目について、重点的に検討することが効果的であると考えられる。

B-1. 系統的に習得した工学の基礎と専門分野の知識を備えている

〔教育実状〕については、約90%の学生が『適正度』に対して肯定的な結果を回答している。前回の本項目に対する結果は80%程度、前々回が90%程度であることを考慮すると、本目標に関する教育実施状況はかなり高いレベルであり、比較的安定した状況で推移しているものと判断される。

『到達度』に関しては、肯定的な回答が約80%となっており、前回（90%）、前々回（70%）の同項目に対する結果と比較すると、平均的な値となっていることがわかる。

本目標に関連する科目は、専門分野の科目（専門科目）であるが、これらの科目の〔教育実状〕や『到達度』の肯定的な回答の割合は、教育目標に関するものと同様に、80%~90%と高い値を示しており、前回のアンケート分析結果報告の際には改善の必要性が指摘されたこれらの科目においては、今回は改善が行われ、適切に実施されたものと思われる。

ただ、ひとつ懸念されるのは、専門科目である「技術英語」に対する〔教育実状〕および『到達度』の肯定的な回答がそれぞれ70%および55%と他の専門科目と比較して顕著に低い値になっていることである。本科目は、専門学科の教員が独自の方法で実施している科目であり、各担当教員の工夫と改善努力が必要であると考えられる。

B-2 専門分野における自己啓発・向上能力を備えている

〔教育実状〕については、95%以上の学生が『適正度』に対して肯定的な回答をしており、前回（85%）、前々回（90%）以上の、良好な結果となっている。

また、『到達度』に関しても、『身に付いた』という肯定的な回答が90%を超えており、前回（80%）、前々

回（70%強）に比較して、10ポイントずつ増加している。

本目標の関連科目である実習系科目の[教育実状]については、前回と同程度の平均85%となっている。このことより、本目標に関しては、該当科目も適正に実施されており、それに対して学生が自主性を持って積極的に取り組んだ結果、『到達度』が年毎に増加しているものと思われる。

B-3 幅広い専門知識と学際性を備えている

[教育実状]に関しては、約90%の学生がその『適正度』に関して肯定的な回答をしている。前回の結果である75%と比較するとかなり改善されており、前々回（90%）の状況に戻ったことになる。

『到達度』においては、肯定的な回答をした学生が65%にとどまっており、この結果は前回（80%）、前々回（90%）と比較すると、大きく減少している。

このように、[教育実状]の顕著な改善があったにもかかわらず『到達度』が大幅に減少したということは、適正な授業が実施されているが、その内容が思うように身に付かないと感じている学生が35%程度存在するということであり、授業効率が悪いことを示唆している。その要因としては、いくつか考えられるが、この教育目標に関連する科目である「複合的資質を育成する科目」の[教育実状]および『到達度』において、肯定的回答が、それぞれ、約90%および約55%となっており、教育目標の項の結果と同様の傾向を示していることを考慮すると、やはり、関連する科目において、学生が達成感を感じていないことが裏付けられる。学科別にその内容を見ると、電子情報および物質工学系の学生は、『到達度』においてすべての学生が、肯定的な回答であることに対して、他の学科の学生はほぼ50%以上が、否定的であり、学科間による相違が大きい。このような結果を踏まえ、各専門系の教科担当において、継続的に効率の良い授業作りの改善努力を行う必要があるとおもわれる。

C-1 ものづくりで養われた実践的な創造性を備えている

[教育実状]に関しては、約90%の学生がその『適正度』について、肯定的に回答しており、前回の結果（約70%）と比較すると、大きく増加しており、前々回の結果（90%）に戻ったことになっている。これに関連する科目である「特別演習」や「特別実習」の[教育実状]に関する回答では、前者の場合、100%、後者は80%の学生が肯定的な回答をしており、この項目においては、前回の状況が改善され、適正に教育活動が実施されているものと思われる。

『到達度』については、同じく90%程度の学生が、肯定的な回答をしており、前回の結果（70%）と比較すると、[教育実状]の場合と同様に、かなり増加している。

本教育目標に関しては、前回、[教育実状]および『到達度』とも低レベルの値に止まり、関連科目の実施内容について検討が必要である旨、分析報告したが、今回は、上記のように問題ない状況になっている。

C-2 論理的思考能力と課題探究・解決能力を備えている

[教育状況]については、約90%の学生が、『適正度』に関して肯定的に回答しており、前回（80%）および前々回（100%）の結果と比較して平均的な値となっている。

『到達度』に関しては、ほぼ85%の学生が肯定的な回答をしており、この結果も前回と同じ値となっている。

以上より、本教育目標に関しては、従前より安定して適正な授業実践がなされており、達成感も十分に実感されていると判断される。

C-3 ものごとを企画し計画的に進める能力を備えている

[教育実状]に関しては、その『適正度』において肯定的な回答をした学生は95%以上に達し、前回(85%)、前々回(90%)よりもさらに改善された結果になっている。

『到達度』については、約80%の学生が、肯定的な回答をしており、前回の結果(70%)に比較して、[教育実状]の場合と同様に、改善が進んだ状態であるといえる。

本教育目標に関連した科目の「特別研究」や「特別演習」においては、[教育実状]、『到達度』とも、肯定的回答が90%程度の高いレベルにあり、本項目においては、継続的な改善がなされ、適正な状況であると判断される。

全体として

今回の結果は、全体的に、前回に比較してほとんどの項目に対し、肯定的な回答が増加している傾向がある。これは、前回のアンケート対象であった専攻科修了生がカリキュラムの変動の影響を受けた学年であったことを考慮すると予想できる結果であるが、そのほかに、教員および学生の改善努力、あるいはその学年特有の学生の気質もある程度影響しているものと思われる。

【E：その他：設問63～77】

○専攻科の授業内容について

教科目の選択の自由度についての『満足度』は、一般科目が前回63%に対して今回約65%とほぼ同じ、所属専攻の科目が前回60%に対して今回約70%と増加し、生産情報システム工学専攻学生で所属系以外の科目については前回50%に対し約75%と増加が見られる。専攻科における「少人数の授業体制」については、『満足度』は90%以上となっており、前々回、前回と同様非常に良い結果である。

○シラバスについて

『役に立った』『それなりに役に立った』との回答は21名(約80%)で、本科の約65%と比較すると学生のシラバス活用度は高いといえる。

○教員の時間外での対応について

『あまりよい対応でなかった』と1名が回答しているが、残りの26名は『よい対応』『おおむねよい対応』と回答しており、前回と同様、高い評価である。

○学会などでの発表について

発表した学生23名のうち21名は『有益』『おおむね有益』と回答している。『発表していない』学生は4名である。ちなみに前回『発表していない』学生は1名であった。

○ポスターセッションについて

『よい』との回答が、前回の4名(約20%)から11名(約40%)までに増加し、『企画はよいが改善してほしい』との回答が、前回の15名(約80%)から10名(約40%)まで減少した。しかしながらその一方で、前は皆無であった『他の企画が良い』という回答が6名(約20%)からあがった。その内訳は機械系2名、電気系1名、応用物質専攻1名、建築専攻2名である。ポスターセッションの内容・実施方法等の再検討やさらなる改善が必要であるのかもしれない。また、「ポスターセッションを経験して、どうでしたか」という設問に対し、『満足度』は前回とほぼ同じ約60%であった。

○各専攻における特別研究の発表会について

各専攻における特別研究の発表会について、『満足度』は90%以上であり、前回の80%よりもさらに伸

びた。

○学生相談室について

[必要性] に関しては『必要』『それなりに必要』が11名(約48%)、『余り必要でない』『必要でない』が12名(約52%)という回答になった。前回は、1名を除いた残りの18名が『それなりに必要』であると回答していたことと比較すると大幅な減少である。また、[実状]についても、『機能していた』『それなりに機能していた』が前回の12名(60%)から10名(45%)まで低下しており、前回は回答が皆無であった『機能していなかった』とする学生も7名(30%)ほど存在する。前回と比較したとき、回答がこれほど低下した原因を調査し改善する必要があるかもしれない。

○学校の事務サービスについて

『よかった』『おおむねよかった』と回答した学生は23名(約85%)、『よくなかった』との回答は皆無であった。前回は『満足』『おおむね満足』が12名(約60%)、『よくなかった』が5名(約25%)であることから、今回は学生の満足度が大幅に上がったといえるであろう。

○T.A.について

今回T.A.を『必要』と回答した学生は12名(約45%)、『あってもなくてもよい』は14名(約52%)である。『必要でない』と回答した学生は電気系学生の1名(約3%)のみであった。ちなみに『必要でない』との回答数は前回4名(約20%)、前々回2名(約10%)であった。

【自由意見】

12名から多くの意見が寄せられた。それぞれの意見を、(1)教務に関すること、(2)学生指導に関すること、および(3)その他に分類し、以下にまとめた。大かっこは件数、学科特有と思われるものには丸かっこ書きで学科名をつけている。

(1) 教務に関すること

○複合的資質を育成する科目について

多学科で集まってやるのはいいけど、先生たちの連携があまりとれてなく、結局学科毎に独自の判断で動くことが多々あった、創造設計合同演習はもう少し考えた方がよい、複合的資質を育成するためにもっと他の学科の単位もJABEEの項目として取り扱ってほしい、複合的資質を育成する科目については、自分の専門に役に立つことはなく、普段使うこともないので、あまり頭に残っていないのが現状、学際性よりも専門分野を深めたかった。

○1年前期・後期、2年前期・後期を通して平均的になるように時間割を組んでほしかった[2件]。

○専攻科の授業は、一般科目、専門ともに選択肢が少なすぎる[2件]。

○きちんとした英語の教育をしてほしい[4件]。

○数学の授業は繰り返しが多いです。建築科の人のための授業になっています。大学院への進学に対応した授業もして下さい。

○改善アンケートをマークシートでとるのは無意味である[2件]

○学会等の発表する機会が多すぎる(発表するための資料を作るのに時間が取られ、研究が進まない)(A)

○TAの給料が安い[2件]

○簡単にに入れて楽、というイメージを後輩(本科)は持っている聞いた。実際そうだと思う。もう少しレベルを挙げないとレベルが低い専攻科になると思う。今まで頑張ってきた1期生等の先輩に失礼!

○就職活動と将来の両立が非常に困難。

○他学校との交流強化

○下級生の授業態度について、上級生が見本となって正して行く風潮を作り直さないとだめだと思う。

○専攻科での環境改善に先生方が本気で取り組んでくれてありがたいと思います。

(2) 学生指導に関すること

○マナーの低下が著しく、もっとしっかり指導すべき[6件]

あいさつ、スリッパ、掃除、ゴミ捨て、駐輪場、身だしなみ(制服、髪、ピアス等)

○門の前に立たなくてもいいと思う

○学内の掃除をきちんとすべき

(3) その他

○専攻科生には、あまり、学校行事の連絡が回ってきません。情報網を整備してください。

○専攻科棟の建物の欠陥をどうにかすべき(壁のはがれ、ひび、揺れ、雨漏れ、ドアの不具合)[2件]

○駐輪場を増やす(専攻科用の駐輪場等)

○専攻科の下駄箱を改善する。

○生協が欲しい

教務関係では、複合的資質を育成する科目について、教員間の連携の悪さを指摘する意見や、学際より専門性を深めたいという意見があった。また、授業配分の平均化、英語教育の充実、TA給料の増加、授業の選択肢の増加、改善アンケートをマークシートでとるのは無意味などが複数意見として挙げられた。

学生指導では、自らに関してよりも、本科生の基本的マナーの低下に対して指導すべきだという意見が目立っていた。

その他として挙げられている専攻科生に対する情報網の整備および建物の欠陥の修繕については対応が必要であると思われる。

4.3 H18 年度新入生保護者アンケート

【設問1：お子様の所属学科】

アンケートに回答した新入生の保護者（前回留年生の保護者を除く）の総数は 202 名（回答率 94.0%）である。所属学科別では、機械工学科 42 名（回答率 97.7%）、電気工学科 39 名（回答率 92.9%）、電子情報工学科 43 名（回答率 97.7%）、物質工学科 43 名（回答率 95.6%）、建築学科 35 名（回答率 85.4%）であった。

【設問2：お子様の性別】

男子と回答した数が 153 名（75.7%）、女子と回答した数が 49 名（24.3%）であった。

【設問3：寮生・通学生の別】

通学生と回答した数が 143 名（70.8%）、寮生と回答した数が 59 名（29.8%）であった。

【設問4：通学生の通学方法】

徒歩は全体で 4 名と少なく、公共交通機関 84 名と自転車 72 名がほぼ同程度であった。ただし、複数の方法を併用する学生は複数の回答をしていると思われる。

【設問5：（通学生のみ）通学方法について】

回答数 131 に対して「やや問題がある」「問題がある」とした回答は 20 名あった。記述による問題の内容は主に通学路に関する心配事（距離が遠い、交通量が多い、通学路が狭い、坂道が多い、交通が不便など）が 10 件、駅からのスクールバス（シャトルバス）があると良いが 3 件、荒尾駅からのバスが無く不便であるということが 3 件であった。また、交通が不便ということで早くバイク通学が出来るようになると良いという意見もあった。

【設問6：（寮生のみ）寮生活について】

回答数55に対して「やや心配」「心配がある」と回答した保護者は半数近い24名であった。記述による内容のほとんどは、始めて親元を離れるということを反映して、集団生活へなじめるかどうかであった。具体的な意見として、上級生や同級生との人間関係の構築、朝起きや洗濯といった日常生活のことを心配するものが複数あった。

【設問7：有明高専を最初に知ったのは】

全回答 207 名のうち、「知人」が 80 名（39%）と最も高く、他の選択肢である「ホームページ」・「パンフレット等」・「入試説明会」・「中学の先生」と回答したのはそれぞれ 10%未満である。「その他」が 70 名（34%）と高く、具体的な回答として「以前から知っていた」（20 名）や親類等身近な人を通じて等（7 名）が多い。「知人」にこれらを加えると、ホームページやパンフレットといった広報誌等よりも人を介しての認知度が非常に高くなる。そこで、有明高専の存在を効果的に知らせるため、マスコミ等を利用したり、その他の新たな方法を考案していかなければならない。

「入試説明会」が有明高専を最初に知ったという回答が少数なのは当然であろうが、これを除くと「ホ

ームページ」が回答数 11 と最も少なく、機械工学科では 0 の回答である。有明高専を保護者やその知人にいかに知らせるかということについて、今後しっかりと考えていかなければならないのは当然であるが、有明高専を世間に紹介する機会を増やす努力が必要である。

【設問 8：有明高専受験を決定した時期】

回答数 190 のうち、10 月より前が 97 名（51%）を占め、12 月や 10 月は 20%台前半である。中学 3 年生の 2 学期までに受験が決定したのは 95%を超える。

本校では例年 10 月に入試説明会・学校見学会を実施している。それより前の時期では 8 月にオープンカレッジを行っており、また、9 月には近郊の中学校を訪問し、福岡市・佐賀市・熊本市で説明会を行っている。したがって、オープンカレッジが本校の受験決定に影響を与えていることは想定されよう。また、中学校訪問でもこれまで以上に本校の魅力を伝えられるような方法を考案していかなければならない。様々な機会を通じて受験生確保の方策を考える必要がある。

【設問 9：有明高専の情報を何で知りましたか。】

複数回答のため全回答は 390 件に達している。そのうち「パンフレット」が 103 件（51%）、「ホームページ」が 89 件（44%）を占めており、広報誌の内容を充実させることが大切であろう。

「知人」（62 件）の割合は 31%で、【設問 7】の 40%弱とほぼ等しい。したがって、「知人」に有効な情報が提供できるようにする必要もあろう。その他の意見の中にオープンカレッジが散見されるので（17 件中 5 件）、オープンカレッジの本校における位置付けを確認しておくことが大事であろう。

【設問 10：入学の決め手】

入学の決め手としては平均で 80%と多くの回答者が『就職率が高い』をあげており、次いで『専攻科や大学に進学できる』（60%）、『教育がしっかりしている』（34%）、『設備がよい』（25%）の順であった。学科ごとに見てみると、機械工学科では『就職率が高い』および『教育がしっかりしている』が平均を上回り、それぞれ 86%、50%であった。電気工学科では、『就職率が高い』が全学科でもっとも高く 95%であり就職に期待を寄せていることが伺える。電子情報工学科では、『専攻科や大学に進学できる』が 70%で全学科中もっとも高く、他学科に比べて進学志向が高いようである。物質工学科および建築学科は、他学科に比べ 1 人あたりの回答数が低く（平均 2.1 個に対し、物質工学科 1.8、建築学科 1.6）、回答を 1 つしか選んでいない回答者が多いようであるが、就職、進学の順で決め手としている傾向は他学科と同様であった。

選択項目以外の記述回答では、「専門的な技術を修得できる」（15 件）が最も多く、「本人の希望」（13 件）、「親戚・兄弟が通学している・卒業した」、「自宅通学ができる」、「中学校・知人に勧められた」、「受験がないので勉強を長い目で見られる・普通高校の勉強に疑問を感じる」、「説明会の内容がよかった」（各 2 件）、「人間関係に広がりができる」、「エビデンスを重視していることが方針の中にある」、「他の公立や私学に比べて安心感がある。それは教育感、設備 etc も含まれますが、卒業生や在校生の質（人間性）の高さも決め手となります」（各 1 件）など、様々な理由が挙げられた。

【設問 11：入学後心配なこと】

平均的に、『心配なし』という回答は 14%で、ほとんどが何らかの心配をされているようである。そのうち、『学業』がほぼ 80%で、普通高校とは違う内容についていけるかどうか不安があるようである。『通学方法』や『寮生活』が心配であるとの回答は、【設問 5】【設問 6】とは若干数値は異なっていたが、それぞ

れ 50%, 30%で、特に 15 歳という若さで家を出て寮生活をするに対する心配が見て取れる。一方、『学校生活』が心配との回答は 25%とそれほど多くないようである。学科によるばらつきはそれほど大きくなく、同様の傾向であった。

記述式では、「人間関係（友人・上下関係・いじめ）（寮も含む）」（7 件）、「服装・生活の乱れ」、「生活が大学に近い」（各 3 件）、「部活との両立」、「子どもの様子があまり分からない」（各 2 件）、「健康面」、「言葉の問題（方言）」、「遅刻などしないかどうか」、「盗難」（各 1 件）などのほか、

- ・製図等、自宅で作業するような課題があるのでしょうか、
- ・親としても気をつけますが、学校でも生徒一人ひとりに声等かけていただければと思います、なども挙げられていた。

【設問 12：自由意見】

全部で 22 件の意見が寄せられた。この中で寮生活に関するものが 7 件（32%）と最も多く、初めての寮生活に対する不安が保護者にも多くあることが確認された。本校としてもこの不安を少しでも事前に解消できるよう一つ、一つの意見を尊重してきめ細かい対応を取る必要があるように思う。その他、学習指導面に関する意見や期待が 3 件、学校生活にかける期待が 4 件、施設・環境関連の改善意見が 3 件あり、これからの学校生活に対する期待と子弟の成長を願う気持ちが感じられる。また、校則の自由度あるいは遵守の不徹底に対する不安を示す意見もあり、看過できない事項として検討すべきであろう。以上、新入生保護者の自由意見を概観すると、本校の保護者に対する姿勢を改善し、学生はもとより保護者にもさらに顔を向けた学校運営を念頭に置いておくことが必要であるように思われる。以下に、すべての自由意見を大まかな項目ごとに列記する。

○寮生活に関するもの

- ・洗面所、洗濯場、洗濯機が少ないと思いました。
- ・本人は学校にも寮生活にもとても期待を持って楽しみにしている様子です。親元を離れることで親の方は何かと心配です。学校の様子や寮の様子等色々知る機会がたくさんあるとうれしく思います。お世話をおかけしますが、よろしく願います。
- ・入寮者の保護者の意見を少し……。荷物の搬入をさせて頂いた折、受け渡された部屋の机の中に髪の毛や菓子くず等が入ったままで、机の上には飲み物を置いた跡があり、少し残念でした。男子寮とは、そういう所かもしれない。
- ・15 歳で親元を出るので、少し寂しい気もしますが、5 年後どのような青年に育っているのかとても楽しみです。学業だけでなく、幅広い人間関係の中でとても多くのことを学べることと思っています。／入寮説明のときに、病気になったときの寮としての対応を教えてほしかったです。寮医などがあって病院等紹介してもらえるのでしょうか。／誓約書を出したのですが、学則や寮則等を知らずに「何に誓約するんだ？」と行ってしまいました。
- ・寮に、カーテンで、プライベートのしきりを作ってほしい！
- ・在校生や卒業生の保護者の方々から「寮はやめた方がよい」と口々に言われ、通学を検討しました。どうしてでしょうか。／親自身、大傘田の地を離れ、早 20 年以上。大傘田へ帰ってもあまり言葉が通じません。子供はもっとでしょう。アクセントによってもしかり、他県部の子供たちが集まると聞き、授業内容が通じなければ理解意欲も失われます。どうぞ前期が勝負となりましようから、先生方の言葉の力に、是非にご協力をいただきたいと思います。自由に書きました。失礼なこととは思いましたが、「兄」

の際にとっても苦労した経験を持ちますので、おもわず記させていただきました。

- ・大変ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、よろしくお祈りします。／昨日から寮の生活が始まり、緊張しているようです。特に先輩への接し方が分からず、不安でいっぱいのように、早速「寮を出たい」「先輩が嫌だ」とメールが届き、少し心配しています。学校は楽しいということなので、何よりです。週末は帰ってくるように話したのですが、寮の友達と出かけるとか……。慣れるまで色々らしいこともあると思いますが、頑張っしてほしいと願っています。学校の様子に何か変化等ありましたらお知らせください。どうぞよろしくお祈りいたします。

○学習指導に関するもの

- ・課題試験で国語がないのは何故ですか？私個人としてはあった方がよいと思いますが、今後も同じように実施されないのは不信感さえ抱きます。／設備がかなり充実しているようですが、やはり保護者としては学校生活での態度やきちんとした服装で授業を受ける、学業低下に伴う適格な指導を期待します。家庭での躰が基本ですが、学校に行けば自由になるというのも少し考えものです。これからの高専での教育がよいものとなるようお願いいたします。確かに近年では、学校生活や服装の乱れがひどいので、受験するのは躊躇されました。やはり本校を受けて正解だったと思えるよう、親子共々頑張りたいものです。
- ・学修単位というものがどういうものかわかりません。子どもにも説明できないのでよく学校で指導してください。
- ・私がどんなに言っても勉強をしてくれません。こんなことをお願いするのも申し訳ないのですが、先生方の方で、勉強しないと授業について行けない、／進級できないということを本人が自覚するように話していただけないでしょうか。どうぞよろしくお祈りいたします。

○学校生活にかける期待

- ・説明会を聞いて、大変よい学校だと思いました。子供たちが成長して行く中で、様々なことでこれからお世話になります。
- ・希望しておりました学校に入学でき、本当に喜んでいますが、これからは、本人がいかに努力していくかが大切だと思っています。なかなか難しい年頃ではありますが、今後ともよろしくご指導の程お願いいたします。／有明高専では、他の学科との交流（理解）も多く考えてあるとのこと、2年次の混合クラスもよい試みだと感じております。いろいろなものを見る広い視野・感性を育ててほしいと思います。
- ・高専に何回か足を運び、感じたことは、学生の自主性を尊重する学校だということ――でもこれは言葉を変えれば、自分で何でもしないとおいていかれるということですね。やっぱり高校とは違う所だということを感じました。やがて厳しい社会の中で仕事をしていくのですから、中学気分を一気に吹き飛ばして厳しい中にも楽しく充実した5年間の学生生活を送ってほしいと思っています。
- ・お世話になります。本人の強い希望（幼い頃からの建築に対する夢）で高専に進学しております。部活動も希望し、学業との両立ができるかと案じております。／親とすれば、近くにある進学校へと思っておりましたので、本人がどこまでやれるのか、しっかり見届けようと思います。

○施設設備に関するもの

- ・説明会や入学式等学校行事で保護者が多数出校するとき等、女子トイレが少ないので臨時に男子トイレを数カ所、女子専用開放されてはいかがでしょうか。
- ・遠距離通学のため、自転車、公共交通機関を利用しておりますが、大牟田駅より通学バス（学校専用）スクールバスがあれば、とても便利だと思います。今後、スクールバスの検討等ないのでしょうか。

是非お願いいたします。

- ・今更聞くのはおかしいですが、教室内では、下くつでいいんですね。

○その他

- ・5年の間に希望する道が変わらないかと心配しています。
- ・厳粛なる式典である入学式と、音楽があまりにもギャップがあり過ぎて、これも高専の独特な「自由」というものだろうか... と思ってみましたが、どうしても違和感が残ったのは私だけでしょうか。
- ・制服・髪型が乱れている学生を見かけます。もう少し厳しく指導してもらいたいです。／学食がもう少し広くなればいいなと思います。
- ・よろしくお願いいたします。
- ・今のところは、特にありません。

4.4 H18年度2年生保護者アンケート

【設問1・2：所属学科・性別】

回答者は全体で176名であり、この値は2年生の全体207名の85%にあたる。物質工学科は92.5%（40名中37名回答）と高く、建築学科は75%（44名中33名回答）で最も低い回答である。

2年生の207名の内訳は、男子165名、女子42名であり、回答者の割合は両者とも85%で等しい。物質工学科では女子全員（13名）の保護者が回答しているが、建築学科では約70%（13名中9名）と低い

【設問3：寮生・通学生の別】

全回答176名の内訳は、通学生が136名（77%）、寮生が38名（22%）である。2年生の全体207名では、通学生が154名（74%）、寮生が51名（25%）、下宿等が2名なので、回答者は通学生が88%、寮生が75%、下宿等は100%である。

寮生の数は、建築学科では33名中14名であり、これは42%にあたり、他学科に比べて高い割合を占めている。建築学科を有する九州の高専は本校と都城高専のみであり、遠方からの学生が多数いることを示している。

女子学生の数が多い物質工学科と電子情報工学科では寮生の割合は15%前後と低い。なお、女子学生が少ない電気工学科も15%と低い。

【設問4：（通学生の保護者のみ）お子様の通学方法は何ですか】

回答総数は161であり、これは通学生と回答した数136よりも多いことから、複数の通学方法を選択した保護者が存在する。内訳は、徒歩が5名（3.7%）、公共交通機関が63名（46.3%）、自転車が38名（27.9%）、バイクが53名（39.0%）、自家用車送迎が2名（1.5%）であった。

【設問5：（通学生の保護者のみお答えください）通学方法についてどのように思われますか】

回答総数は135であり、『問題ない』との回答が67名（49.6%）、『おおむね問題ない』が48名（35.6%）、『やや問題がある』が16名（11.9%）、『問題がある』が4名（3.0%）であった。

『問題ない』あるいは『おおむね問題ない』の回答は115名（85.1%）であり、一方で、『やや問題がある』あるいは『問題がある』の回答は20名（14.8%）である。

関連の理由として記述されていた内容を以下にまとめる。

- ・交通事故等が心配である（7件）
- ・大牟田駅から本校までのバスに問題がある（本数が少ない、込み合う等）（4件）
- ・公共交通機関の乗り継ぎが悪い（4件）
- ・家から公共交通機関までが遠いため、雨の日に子供の希望等のために自家用車での送り迎えをしている（4件）
- ・駅から学校までスクールバスを運行してほしい（3件）
- ・通学路が暗い
- ・バイク通学の際に手袋や長袖シャツを着用したがる
- ・自宅までの距離が若干短かったためバイク通学が認められなかったが、認めていただきたい
- ・交通費の負担が大きい

【設問6: (寮生の保護者のみお答えください) 寮生活についてどのように思われますか】

回答総数は36であり、『問題ない』と回答した数が18名(50.0%),『おおむね問題ない』が16名(44.4%),『やや問題がある』が4名(5.6%),『問題がある』が0名(0.0%)であった。

『問題ない』あるいは『おおむね問題ない』と回答した数は32名(94.4%)であり、一方で、『やや問題がある』あるいは『問題がある』は4名(5.6%)である。

記述されていた関連の理由を以下にまとめる。

- ・自立心がついた
- ・上級生・下級生の縦の関係については厳しくてよい
- ・冷房がない
- ・寮のルールや届け出等に関して少し厳しいように感じる

【設問7: 有明高専に入学させて】

「有明高専に入学させて良かったかと思うか」については、5学科全体で、『非常に良かった』が54名(約30%),『よかった』が109名(約63%),『やや後悔』が12名(7%),『後悔している』は0名(0%)であり、学科別に見ても、全体と同じ傾向である。つまり、2年生の保護者からは、全体的に入学させてよかったという評価が得られている。

『非常によかった』あるいは『よかった』で記述された理由(23件)の主なものは、「本人が、生き生き、楽しく、自ら進んで、勉強や生活をしている」「専門的なことを学べる」「先生の指導が行き届いている」等、本人・学校側両面で肯定的な理由が上げられている。一方、『やや後悔』の理由(7件)で記述されたものは、「本人が、勉強についていってない、勉強する時間が少ない、成績が下がっている」等、おもに学習面の不安が上げられている。

【設問8: 有明高専の学習指導のあり方について】

「有明高専の学習指導のあり方についてどのように思うか」については、5学科全体で、『満足』が54名(約30%),『おおむね満足』が99名(約60%),『やや不満』が15名(約10%),『不満』が1名(0.6%)であり、学科別では、建築学科で『やや不満』が約18%と少し高いが、他の4学科は全体と同じ傾向である。全般的には、肯定的な評価が得られている。

『おおむね満足』で記述された理由(4件)では、「授業での説明をわかりやすく」「学校の様子が分からない」等、『満足』ではなく『おおむね満足』に評価を下げた理由が挙げられている。また、『やや不満』で記述された理由(約9件)では、「もっと課題や宿題を、もっと補習や個人指導を」「もっと手を差し伸べて、もっと指導を強化して」等、本人の勉学意欲を喚起させる指導と、学校側の学習に対するサポートの実働を促すものが挙げられている。補習等の学習サポートはいくつかの教科ではなされているが、オフタイムのより効果的な運用等を含めて、サポート体制をより整備する必要があるとも思われる。

【設問9: 有明高専の学生への生活指導について】

回答数172に対して「やや不満」「不満である」と回答した保護者は17名で、全体の1割程度であった。記述による不満の内容は、校則や指導をもっと厳しくすべきという趣旨の意見が10件ほどあり、そのなかでも服装の乱れを指摘するものが6件ほどあった。そのほかには、寮と学校でのゴミの分別方法を統一してほしい、バイク等の交通ルールが悪い、などがあつた。

【設問10：制服について】

回答数 174 に対して 9 割近い 154 名が「現在のままの制服でよい」と回答している。「私服にした方がよい」は 16 名、「その他」は 4 名であった。記述による意見として、「そのままでもよい」「5 年間制服にする」「制服のデザインを変える」などがあった。また上記設問[9]とも関係するが、「制服の乱れた着方になっているので、そのままの状態では放置されるなら、私服の方がよい」という意見も 1 件あった。

【設問 11：お子様のクラブ活動のあり方について】

まず、『所属していない』の回答は、機械工学科では 7%、電気工学科 23%、電子情報工学科 32%、物質工学科 19%、建築学科 16%、平均では 21%であり、80%ほどの多くの学生がなんらかの部に所属していることがわかる。

部に所属している学生の保護者の『満足度』の割合は、電子情報工学科の 88%を除き、いずれの学科も 90%を超えており、平均でも 93%がおおむね満足している状況である。記述意見においては、「よい先輩・後輩関係の中で、充実した活動ができている。また顧問の先生の指導にも満足している」、「部員の方によくしてもらっているみたい」、などの意見がある一方、「専門の指導者をつけてほしい」(3 件)、「活動内容がよくわからない／無理な計画が多く見える」、「顧問の先生との接点もなく、試合(練習試合)などの日程もほとんど前日になって分かるくらいなので、応援にも行けない」、「父母会がないので残念」、「指導がなされていない」(各 1 件)などの満足が得られていない原因と思われる意見があり、保護者への活動内容などの連絡をもう少し行う必要があると思われる。

【設問 12：体育祭・高専祭のあり方について】

『満足度』はもっとも低い電気工学科で 86%、もっとも高い物質工学科では 95%で、いずれの学科も 85%を超えており、平均でも 90%と極めて高い満足度であった。体育祭・高専祭のあり方としてはほぼ問題ないと思われる。

記述式では、「体育祭がよかった」という意見をはじめ、「もう少し規模を拡大して「地域」も取り組んだイベントにしては」という提案があった一方、「体育祭を毎年やってほしい」(3 件)、「高専は高校と違い、短大生と高校 1 年生がともに活動をしていくようなものなので、体力差が大きいということもあり、体育祭に関して言えば、学内での体調管理はきちんとし、もっと、気配りが必要」、「高専祭は、生徒だけがちょっと満足しているようで、来客人にとっては目のつけようがない。体育祭の満足さが大きすぎる」(各 1 件)、といった意見も挙げられていた。

【設問 13：自由意見】

自由意見の数は多くなく、10 件程度の意見をいただいた。これは、新入生保護者の場合の約半数で、保護者においても本校の教育体制の理解度が深まってきたことがわかる。その中で校則に関するものが 2 件、学寮に関するものが 2 件あり、比較的関心が高い傾向がうかがえる。また、高専への進学を肯定的に捉えたものが 2 件あり、本校の教育体制・環境にうまく順応し、有意義な学校生活を送っている実態が確認できる。また、校則に関するものは、その緩和を願うものであり、新入学時とは反対の傾向になっていることは興味深い。ただ、学校生活に対する不安や悩みを示す意見もあり、全体的にはこのような状態の学生や保護者が顕在・潜在を含めある程度の割合で在籍していると考えられ、担任を中心とする援助体制のさらなる機能化が望まれる。

以下にすべての自由意見を項目ごとに列記する。

○校則に関するもの

- ・工業系の学校として、バイク、車通学の規則を緩くしてもらいたい（寮に関しても）／今後も、生徒の自主性を重んじてもらいたい
- ・制服の件で、校章入りのシャツだけでなく無地（校章なし）でもOKにしていきたい！

○寮生活に関するもの

- ・寮生なので、できるだけ、学校の情報等を郵送で知らせてほしい。
- ・寮の食事を見直してほしい

○その他

- ・興味をもって学習する気持ちや力を持てるような指導をお願いします。
- ・希望の高校に入学し、楽しく学校へも通っています。高専でよかったと将来思えるような学生生活を送ってほしいと思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・親も子も有明高専で良かったと思っています。これからもよろしく願いいたします。

5. あとがき

学校運営検討委員会が本校の教育プログラムの継続的改善に資するために行ってきたアンケートの実施・分析・報告活動は今年で足掛け5年目になり、報告書の提出も4回目となる。今回は、新しい試みとして、新入生および2年生の保護者に対して初めてアンケートを実施した。回答率はそれぞれ94%および85%とたいへん多くの保護者の方にご協力をいただくことができた。ここに、改めて感謝申し上げる。

その結果分析において、改善検討を要すると思われる事項が浮かび上がってきた。これまで、本校では学校の教育方針や日常の学校行事などをできるだけ迅速に保護者の方々にお知らせしてきたつもりであったが、寮生活における情報や部活動の活動予定・報告および施設改修予定などのきめ細かい情報の伝達が適時・適切に行われていたとは言えないことが保護者側からのご意見により認識できた。今後は、担任、部活動顧問、寮関係職員はもとより、学科・学校をあげて保護者の方々へ顔を向けた学校運営を行うよう意識することが必要と思われる。

また、一つ、一つのご意見にも真摯に耳を傾け、学校としての対応を保護者に向けて示すことも重要であるとの認識から、今回の保護者懇談会の際に、アンケート時にいただいたご意見に対する関係部署の対応を文書でお示しする措置を本委員会から関係各位にお願いした。

来年度は、5回目のアンケート結果報告を提出することになるが、教育プログラムの改善による学生の意識変化や学年による学生気質の相違などを調査するために、過去5年間のアンケート結果をまとめ、その年度変化を総合的に調べる必要があると思われる。そのためにも、本委員会では、アンケート関連業務を適切に実施し、的確な分析結果の報告に勤めなければならない。ここに、関係各位のこれまでのご協力に感謝するとともに、今後の更なるご支援をお願いする次第である。

学校運営検討委員会

委員長 吉田 正道 (機械工学科)
河野 晋 (電気工学科)
嘉藤 学 (電子情報工学科)
田中 康徳 (物質工学科)
松岡 高弘 (建築学科)
坂西 文俊 (一般教育科)
栗原 宏明 (総務課企画室)